

在胎24週未満の超未熟児に関する研究

(分担研究：ハイリスク児の調査に関する研究)
研究協力者：大野 勉
協同研究者：勝又大助、田中佳子

要約：在胎24週未満の超未熟児の急性期の予後と問題点につき検討した。

見出し語：超未熟児、予後、合併症、ショック、皮膚感染症

研究目的：優生保護法の改訂により、在胎22、23週の超未熟児をNICUに収容する機会が増加している。そこで今回、在胎24週未満の超未熟児の早期の予後と合併症を中心とした臨床的特徴につき検討した。

対象：1983年4月から1991年6月までの8年間に、当院NICUに入院した胎22週0日より23週6日までの児19症例である。平均在胎週数は23週1日±5.3日、平均出生体重は556±100gであり、平均Apgar scoreは4.3±2.2であった。なお、19症例のうち男は10例、女は9例で、在胎22週は6例、在胎23週は13例であった。

結果：①19症例の新生児死亡率は57.9%であり、また出生後24時間以内の死亡が新生児死亡の2/3を占めており、新生児死亡例の平均生存時間は71.1時間と短かった。また全死亡率は68.4%で、19例中6例が生存退院できた。②死亡例13例のうち、新生児死亡は11例、乳児死亡は2例であり、その死亡原因では仮死、敗血症、呼吸不全によるものがそれぞれ4例で、これら3疾患で全死亡の92.3%を占めていた(表1)。③入院時の所見では、低体温、低血圧を示す例が、それぞれ63.1%、73.7%と多く、また低蛋白血症、貧血はほとんどの例で認められた(表2)。④ショック状態に陥った児に対し、volume expanderとして凍結血漿や昇圧剤を投与した症例は、それぞれ約60%と高率に達した。⑤在胎24週以上の超未熟児138症例と比較した合併症の頻度では、RDS、PDA、IVH(I-IV⁰)には有意差がみられなかったが、重症IVH(III⁰、IV⁰)は36.8%と2倍も多く、また高K血症は24週以上では38%であるのに、24週未満では80%以上の例で認められた。⑥感染症は全体で78.9%と高率に認められ、この中で感染のフォーカスが皮膚にあり重症化した症例は全体で7例36.8%と高率に認められた(表3)。

考察：在胎24週未満の超未熟児の死亡率は高く、特に出生後24時間以内の早期死亡が多い。これは分娩直後のショックに起因し、救命しえてもショックによる合併症の頻度が高い。また皮膚感染から敗血症となる頻度も高く、在胎24週未満の超未熟児の管理にあたっては、分娩直後のショックの予防と管理、そして皮膚管理が重要と考えられた。

表1 死亡率

| | 生後24時間以内死亡率 | 新生児死亡率 | 全死亡率 |
|-------|--------------|---------------|---------------|
| 在胎22週 | 33.3% (2/6) | 66.7% (4/6) | 83.3% (5/6) |
| 在胎23週 | 38.5% (5/13) | 53.8% (7/13) | 61.5% (8/13) |
| 全体 | 36.8% (7/19) | 57.9% (11/19) | 68.4% (13/19) |

死亡例内訳

| 新生児死亡内訳 | | 乳児死亡内訳 | |
|---------|----|--------|----|
| 仮死 | 4例 | 敗血症 | 1例 |
| 敗血症 | 3例 | 呼吸不全 | 1例 |
| 呼吸不全 | 3例 | | |
| 急性腎不全 | 1例 | | |

表2 入院時低体温、低血圧

| | 低体温 | 平均体温(°C) | 低血圧 | 平均収縮期血圧(mmHg) |
|-------|---------------|-----------|---------------|---------------|
| 在胎22週 | 33.3% (2/6) | 36.1±0.42 | 83.3% (5/6) | 23.7±5.8 |
| 在胎23週 | 76.9% (10/13) | 35.5±0.93 | 69.2% (9/13) | 25.4±9.4 |
| 全体 | 63.1% (12/19) | 35.7±0.85 | 73.7% (14/19) | 24.9±8.5 |

入院時低蛋白血症、貧血

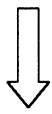
| | 低蛋白血症 | 血清蛋白値(g/dl) | 貧血 | Hb値(g/dl) |
|-------|--------------|-------------|---------------|-----------|
| 在胎22週 | 100% (6/6) | 3.0±0.5 | 100% (6/6) | 12.2±1.6 |
| 在胎23週 | 100% (13/13) | 3.1±0.6 | 76.9% (10/13) | 12.1±2.7 |
| 全体 | 100% (19/19) | 3.1±0.5 | 84.2% (16/19) | 12.1±2.4 |

表3 感染症

| | 感染合併率 | 皮膚感染重症化率 |
|-------|---------------|--------------|
| 在胎22週 | 66.7% (4/6) | 50.0% (3/6) |
| 在胎23週 | 78.6% (11/13) | 30.1% (4/13) |
| 全体 | 78.9% (15/19) | 36.8% (7/19) |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:在胎 24 週未満の超未熟児の急性期の予後と問題点につき検討した。